



ごあいさつ

—50周年を迎えるにあたって—

大町市土地改良区
理事長 中牧豊光

戦後の荒廃と困窮の中から立ち直りつつあった昭和26年、長野県が県土の復興と経済の再生を託して策定した総合開発計画の一環として、農地開発と発電事業を組み合わせた高瀬川上流総合開発事業が進められました。この事業を契機に土地改良法施行を受け、大町土地改良区と平村土地改良区が設立されました。以来、昭和29年の大町市誕生を経て機運が成熟し、昭和32年10月30日に大町市土地改良区が誕生し、今日で満50周年を迎えることができました。

本土地改良区が所管する高瀬川上流地域は、保水力が低く、常習的な河川氾濫に悩まされる高瀬川、鹿島川の複合扇状地で、私たちの祖先は、力をあわせて原野や山林を開墾し、想像を超えた忍耐力と知恵を結集して水路を張り巡らし、保水力を高め、湧水地帯には暗渠排水を伏せ、命がけで河川の氾濫から守り、この耕地を育てまいりました。こうした地域農民の皆様のよき伝統を受け継ぎ、一方では時代の変化に即応しつつ肥沃な農地を保全するために、微力ながら役員一同一丸となって、ほ場整備事業をはじめとする各時代の要請に対応した土地改良事業に積極的に取り組んでまいりました。

この半世紀、今あらためて現在の舵取りを任されている身として、責任の重大さを痛感すると共に、この間、多くの難問や課題を克服できえたのは、ひとえに先輩諸兄のご指導とご鞭撻の賜物と心から感謝申し上げます。さらには、暖かなご指導とご支援をいただいた国、県、市はじめ関係機関、諸団体の皆様、そして何よりも深いご理解とご協力をいただいた組合員をはじめ、歴代の総代、役職員の皆様に改めて厚く御礼申し上げます。

米増産の時代から、米余り現象と一転して始まった減反政策、米価の低落と戦後最大の農政改革となった品目横断的経営安定対策など、今、日本の農業を取り巻く環境は、かつて経験したことのない困難な時代を迎えております。後継者の不足や高齢化、荒廃農地の拡大をはじめとする難題を抱えつつ、世界的規模での自由貿易経済の中で、どのように農地を守り、国土を守り、農村景観や身近な自然環境を保全していくかは、農民だけの問題ではなく、国家的な課題と申しても過言ではありません。

こうした時代背景の中で、土地改良区に求められている使命は、先人が血の滲むような苦勞の末に築き上げられた農地と農業用水の大切さを次世代まで地道に守り継ぐことであり、緑豊かな地域の農村環境や景観と、そこに培われた個性豊かな風土を組合員の皆様と共に維持、発展させていくことは、私たちに課せられた責務と思います。

そのために微力ではありますが、本日を契機として役職員一丸となり、さらに全力を傾けてまいり決意しておりますので、今後も旧に倍する一層のご指導ご鞭撻のほどをお願い申し上げます。50周年にあたってのごあいさつといたします。